

## 2 南留萌支所の区域

留萌管内の南部に位置する留萌市、増毛町、小平町の1市2町は、対馬海流の影響で農耕期間は比較的温暖である。農業地帯は中小河川沿いに発達し、透排水性不良の粘質土壌が広く分布している。

主な作付品目は、3市町ともに水稻を基幹に畑作物、園芸作物並びに畜産等を組み合わせた複合経営が主体となっており、増毛町には果樹専業経営もある。

水田転換畑では土地利用型作物である秋まき小麦、大豆、そば等の定着が進んでいる。

### (1) 地域の現状と改善方向

#### ア 持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

##### (7) 高齢化の進展と地域支援システム作りの推進

・農業従事者の高齢化に伴う労働力不足が進み、今後、個別完結型経営による地域農業の維持、発展を図ることは難しい(表1)。また、新規就農者も少なく、現在の農家戸数を維持することが厳しい状況であることから、地域農業を支える組織づくりによる農地の維持が重要である。そのため、既存の生産組織及び農作業受託組織の拡充など地域支援システムの確立や農業法人の育成を関係機関と連携して進める必要がある。

表1 年齢別農業従事者数(人)

年齢区分	小平町	留萌市	増毛町
30歳未満	8	0	2
30～59	105	34	34
60～64	24	11	7
65歳以上	88	72	65
計	225	117	108

注) 2020農林業センサスより

##### (4) 集落組織機能の維持強化と集落再編の推進

・農家戸数の減少に伴い、農地の維持や用排水の維持管理等の集落機能が徐々に停滞してきている。集落の持つ機能を活性化させ、農地・用排水の維持管理による生産基盤の確保など総合的な取り組みが必要である。

##### (ウ) 階層分化の進展と担い手等への農地集積の推進

・農家戸数は専業、兼業を問わず減少しており、担い手への農地集積を含めた農地の流動化に対する経済的な負担軽減が求められる。また、ほ場分散も多く作業効率が悪い。今後は、「担い手経営安定対策」対象農家として、認定農業者(個人)は水田経営規模10ha以上、集落型経営体(地域連携型法人)は水田経営規模20ha以上の規模が求められることから、地域の将来を見据えた農地集積を進めるため、「人・農地プラン」の支援による農地集積及び交換分合が必要である。

##### (イ) 水稻及び土地利用型作物の安定生産

・水稻生産において、高整粒・低タンパク米生産の年次差が大きいことから基本技術を励行した高品質米の安定生産が求められる。  
・高齢化による農家戸数の減少に伴い一戸当たりの作付面積は増加しており、スマート農業を取り入れた水稻直播栽培や栽培管理の取り組みが必要である。  
・畑作物は土壌透排水性不良が収量・品質不安定化の大きな要因となっていることから、排水改善による畑作物の安定生産と水田とのブロックローテーションを視野に入れた対策が求められる。

##### (オ) 園芸作物・果樹等の高位安定生産

・園芸作物は、各部会を中心に組織活動が行われており、関係機関との連携により活動の活性化及び生産技術の高位平準化が進んでいる。  
・果樹では、果樹協会を中心に生産性の向上、クリーン農業の推進及び生産・販売が行われている。

##### (カ) 環境と調和した農業の推進

・水稻栽培では、温湯消毒済の種子を用いており環境に配慮した生産が行われている。  
・果樹栽培及び園芸作物(ピーマン・ミニトマト)ではYES!clean認証を取得しており、減農薬・減化学肥料栽培に取り組んでいる。  
・廃プラスチックや畜産ふん尿等の適正処理に取り組んでいる。

- ・特別栽培米等の減農薬・減化学肥料栽培による水稻生産が広まりつつあり、環境保全型農業に取り組んでいる。

## イ 多様な人材が活躍する農業・農村の確立

### (7) 担い手活動の活性化と新規参入者等の育成確保の推進

- ・農協青年部組織は広域活動を行っており、地域イベントへの参加や学習会活動に取り組んでいる。
- ・令和元年度より、管内関係機関と連携して新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」として普及センター主催の農業基礎ゼミナールが開催されている。
- ・3市町の新規就農者は非常に少なく農家戸数の急激な減少が危惧されることから、担い手の育成・確保は重要な課題であり、新規参入者に対する受入体制の整備及び営農支援の充実等を図る必要がある（表2）。
- ・「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」には21名の会員が所属しており、会員相互の情報交換による資質向上及び後継者育成に活躍が期待される。

### (4) 女性組織活動の活性化と経営参加の支援

- ・農村女性が農業に生き甲斐と誇りを持ち、仲間と協力しながら地域を活性化する活動が行われている。
- ・簿記記帳など経営管理能力の向上に取り組む女性は少なく固定的である。一方で、経営のパートナーとして「情報交換」「学習の場」が必要とされる。

## ウ 国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・基幹作物である米は地域内外における需要を拡大するため、品質向上と共に情報発信が必要である。
- ・地元で栽培されている野菜類は、道の駅や直売所で販売されており一定の需要がある。
- ・果樹では従来から行われているジャムやジュース加工以外の新たな加工方法が検討されており、技術支援及び情報提供が必要である。
- ・地元で栽培されている強力小麦粉「ルルロソ（北海259号）」は一定した業務需要があるが生産量が少ないため、安定した生産体制づくりが求められている。

## エ 道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・女性グループは、活動メンバーの固定化と高齢化により活動停滞の中、今後は地域農業への理解を深めるため、生産者と消費者との交流が必要である。
- ・未就学児及び小学生を対象に水稻を中心とした食育活動が盛んに行われている。

表2 南留萌における新規就農者および新規参入者の動向

市町村	区分	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小平町	新規学卒	0	0	0	0	0	0
	Uターン	0	0	1	0	0	0
	新規参入	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0
留萌市	新規学卒	0	0	0	0	0	0
	Uターン	0	0	0	1	0	0
	新規参入	2	1	0	0	0	0
	計	2	1	0	1	0	0
増毛町	新規学卒	0	0	0	0	0	0
	Uターン	0	5	0	0	0	0
	新規参入	0	0	1	1	0	0
	計	0	5	1	1	0	0

## (2) 普及活動の地域課題

### ア 地域係の担当活動区域（留萌市、増毛町、小平町）

#### (7) 現状と改善方向（地域係）

##### a 留萌市

##### (a) 農業・農村の現状

#### ○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲は良食味米品種である「ゆめぴりか」・「ななつぼし」を中心に作付されているが、低タンパク米出荷率は低い。平成25年からは小平町の施設でラック式低温庫によるフレコン・バラ受入が始まり、米集荷作業の省力化が進んでいる。
- ・ 土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少ない。また、規模拡大や春先の労働力不足等により、育苗管理時間・ハウス面積が十分に確保出来ないことから、従来より株間を広げて栽培しており、品質へ影響を及ぼしている。
- ・ 平成29年より一部で水稲「きたくりん」によるYES!clean認証を取得している（3戸）。
- ・ 規模拡大による労働力の競合を緩和するため、平成28年から水稲乾田直播栽培・水稲無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稲乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きく対策が必要である。
- ・ 畑作物は、転作畑の作付けが中心であるため、碎土性・透排水性が悪く、生産性が低いほか、小麦、大豆の連作が続いている。
- ・ 花きはトルコギキョウを中心に作付され、大輪仕立てが市場から高い評価を得ている。後継者が少ないため、新規参入者2戸が平成30年度より栽培を開始している。大輪仕立ては整枝や芽かきに多くの労力が必要なため、省力化や採花期分散を目的にハウス自動換気装置や温風暖房機が導入されている。また、労力分散やトルコギキョウの連作回避を目的に大輪アスターやスターチス等の導入が進んでいる。
- ・ ピーマンのYES!clean栽培について、高齢化により作付を中止した農業者の経営を新規参入者2戸へ引き継ぎ、栽培管理、特に病虫害防除技術の習得と収量の向上を目指している。また、YES!clean認証取得を機に、環境に配慮した農業への取り組みが進んでいる。

#### ○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 農業生産法人への農地集積及び作付委託により、農地の有効利用と転作作物における労働軽減が図られている。
- ・ 新規学卒等の若手農業後継者は少ない。関係機関との連携により新規参入者確保の取り組みを推進し、平成30年度から2名が就農している。
- ・ 令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催で開催されている。
- ・ 「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」では会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士・農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。

#### ○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 乾燥野菜加工グループは会員の高齢化により活動を休止している。

#### ○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 女性農業者組織は高齢化により活動が停滞している。
- ・ 地域の中堅農業者による小学生を対象とした食育活動（水稲田植え・収穫体験）が行われている。

## (b)改善方向（留萌市）

### ○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稲栽培における基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取組による低タンパク米生産率、高品質米出荷率の向上。
- ・ 水稲YES! clean取組み農家に対する技術の高位平準化。
- ・ 「南るもい輪作研究会」による水稲乾田直播栽培・無代かき栽培技術の研鑽及び安定生産。
- ・ 畑作は心土破碎やほ場の均平化及びカットドレーンの施工等による粘質土壌の透排水性改善をし、また、大豆間作小麦による連作回避及び水稲とのブロックローテーションを視野に入れた生産技術の高位平準化を進める。
- ・ トルコギキョウ整枝マニュアルを確立し、土壌消毒及びハウス内輪作による土壌病害対策を進める。
- ・ ピーマンは、生育量に応じた肥培管理の徹底と予察に基づくYES!clean栽培基準下での病害虫防除の実施及び効果の確認と検証を進める。

### ○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 農作業の受委託組織（農業生産法人、機械利用組合）に対する効率的な作業体系の支援。
- ・ 新規就農確保対策および支援対策を関係機関と連携し確保・育成に努める。
- ・ 農業後継者及び新規参入者等を対象とした学習会やゼミナールの参加による資質の向上。
- ・ 指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築及び育成。

### ○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 関係機関との連携及び情報交換による新規高付加価値化志向農家の発掘。

### ○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 女性農業者による新たなグループ活動の展開。
- ・ 田植え、収穫体験等による食育活動の継続。

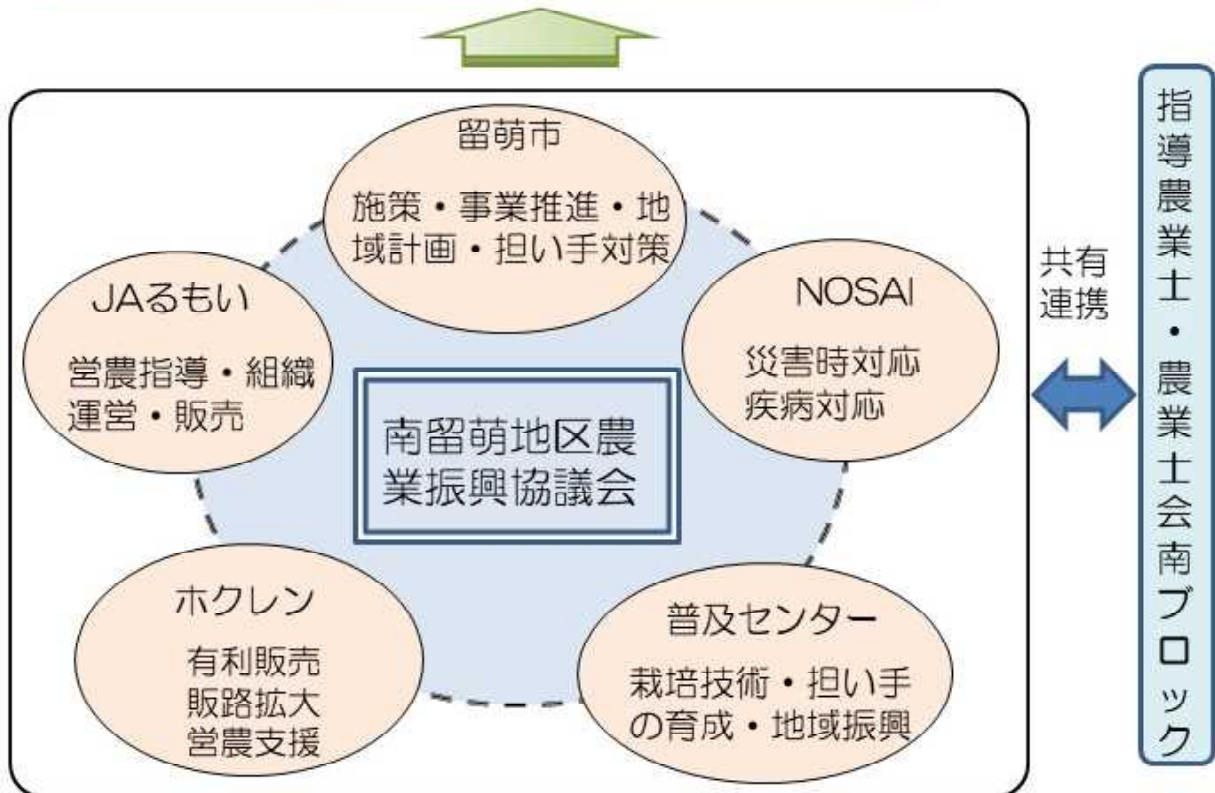
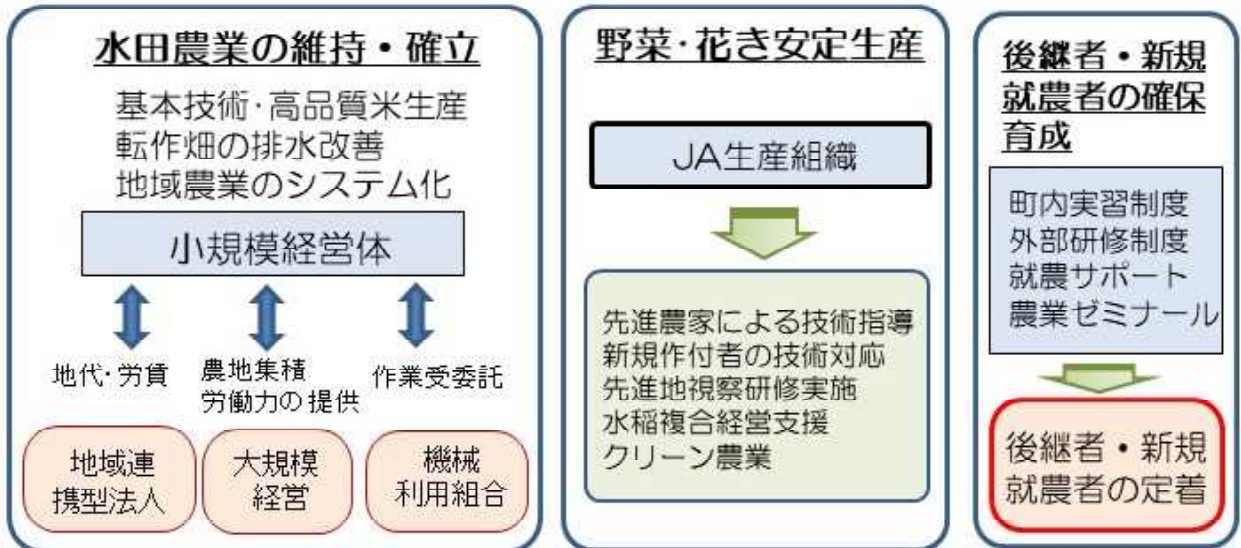
## (c) 具体的な改善対策（留萌市）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
農 村 の 持 続 可 能 立 で 生 産 性 が 高 い 農 業 ・	高品質米の安定生産	技術支援	振興支援	活動・販売支援	農業振興協議会
	転作畑の透排水性改善及び畑作物の生産技術高位平準化	技術支援	振興支援	生産部会活動支援	農業振興協議会
	トルコギキョウ土壌病害対策実施による所得確保	技術支援	振興支援	活動・販売支援	
	YES! clean（水稻・ピーマン）取り組み支援	技術支援	振興支援	生産計画販売対応	
農 業 ・ 農 村 の 多 様 な 人 材 が 活 躍 す る	農作業受委託組織育成による効率的作業体制の支援	活動支援	振興支援	組織育成	農業振興協議会
	農業後継者・新規参入者・女性農業者の資質向上	活動支援 技術支援	研修支援	生産組織支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援と地域担い手育成推進	組織運営支援	組織支援	活動支援	
農 村 の 需 要 を 外 に 開 く 取 組 み	高付加価値化志向農家への支援	技術支援	振興支援	活動支援	
の ら 道 民 の 農 業 理 解 に 支 え	農作業体験・食育活動支援	活動支援	組織支援	活動支援	

(d) 振興構想図（留萌市）

# 留萌市農業のめざす方向

地域受託組織を活用した水田農業の維持・確立  
地域農業の担い手確保・育成



## **b 増毛町**

### **(a) 農業・農村の現状**

#### **○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立**

- ・ 水稲の基幹防除は、無人ヘリ防除組織により作付面積の約50%を受託している。平成27年から基盤整備事業が実施されており、ICTを活用したスマート農業の導入及び効率的作業体系の整備が進みつつある。
- ・ 水稲は良食味米品種である「ゆめぴりか」・「ななつぼし」を中心に、酒造好適米、飼料米と幅広く作付している。3市町の中では比較的低タンパク米生産出荷率が高く、水稲は良食味高品質米を生産しているが収量性が低い。
- ・ 土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少ない。また、規模拡大や春先の労働力不足等により、やむを得ず疎植栽培の実態があり品質へ影響が懸念される。
- ・ 令和2年度より6戸の農業者で特別栽培米の生産が開始されており、減化学肥料・減化学合成農薬による米の生産が行われている。
- ・ 規模拡大による労働力の競合の回避から、平成28年より水稲乾田直播栽培・水稲無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稲乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きく安定生産に至っていない。
- ・ そばによる連作が続いており、また、収量の個人差が大きい(94kg/10a~144kg/10a)。
- ・ 果樹農家では、雇用労力の減少により管理・収穫作業等の遅れが問題となっている。また、協会組織を中心としたクリーン農業の推進にあたって減化学肥料・減化学合成農薬の技術継続を実施している。
- ・ 近年の異常気象により、おうとうの結実不安定、りんごの腐乱病、西洋なしの胴枯病の発生が問題となっている。

#### **○多様な人材が活躍する農業・農村の確立**

- ・ 農業者の高齢化に伴い、JA女性部などのグループ活動の継続が困難な状況にある中、平成30年度より、若手女性を対象としたグループ活動が開始された。
- ・ 令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催により開催されている。
- ・ 指導農業士・農業士会南ブロックでは会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士、農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。
- ・ 「地域おこし協力隊」制度を活用し新規就農者を募集しているが、就農後の育成体制が明確化されていない。

#### **○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立**

- ・ 令和2年より特別栽培米の生産が開始され、付加価値をつけた米価となっている。また、町のふるさと納税への返礼品としても採用され、町のPR品目となっている。
- ・ 地場農産物(果樹)を活用した高付加価値化の取組が増えている。

#### **○道民の理解に支えられる農業・農村の確立**

- ・ 未就学児童等の収穫体験や観光もぎ取りを通じて地域食材のPRを進めている。

(b)改善方向（増毛町）

○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・基盤整備後の水稲安定生産技術及び労力確保システム等の確立。
- ・水稲基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取組による低タンパク米生産率・高整粒米出荷率の向上及び酒米の高品質・安定生産。
- ・特別栽培米生産技術の高位平準化を目指し、情報提供及び効率的な農場管理を推進する。
- ・「南るもい輪作研究会」との連携による水稲乾田直播栽培技術の向上及び安定生産。
- ・そば連作回避、転作畑の有効利用を目的とした、新規作物作付の検討及び生産技術の定着。
- ・果樹における作業分散及び低樹勢等の省力化技術による適正な管理。
- ・果樹難防除病害における試験研究機関との連携による発生予察の充実及び情報の共有化。
- ・果樹のYES!clean、エコファーマーの取組における環境の変化に対応した技術の改善。

○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・若手を中心とした新たな女性グループ活動の活性化。
- ・農業基礎ゼミナールによる新規就農者、女性農業者の育成。
- ・指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築による担い手育成。
- ・新規就農者の受入及び就農後の支援体制整備。

○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・特別栽培米のブランド化及び販路の拡大。
- ・高付加価値化に向けた技術情報の提供及び販路の確立。

○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

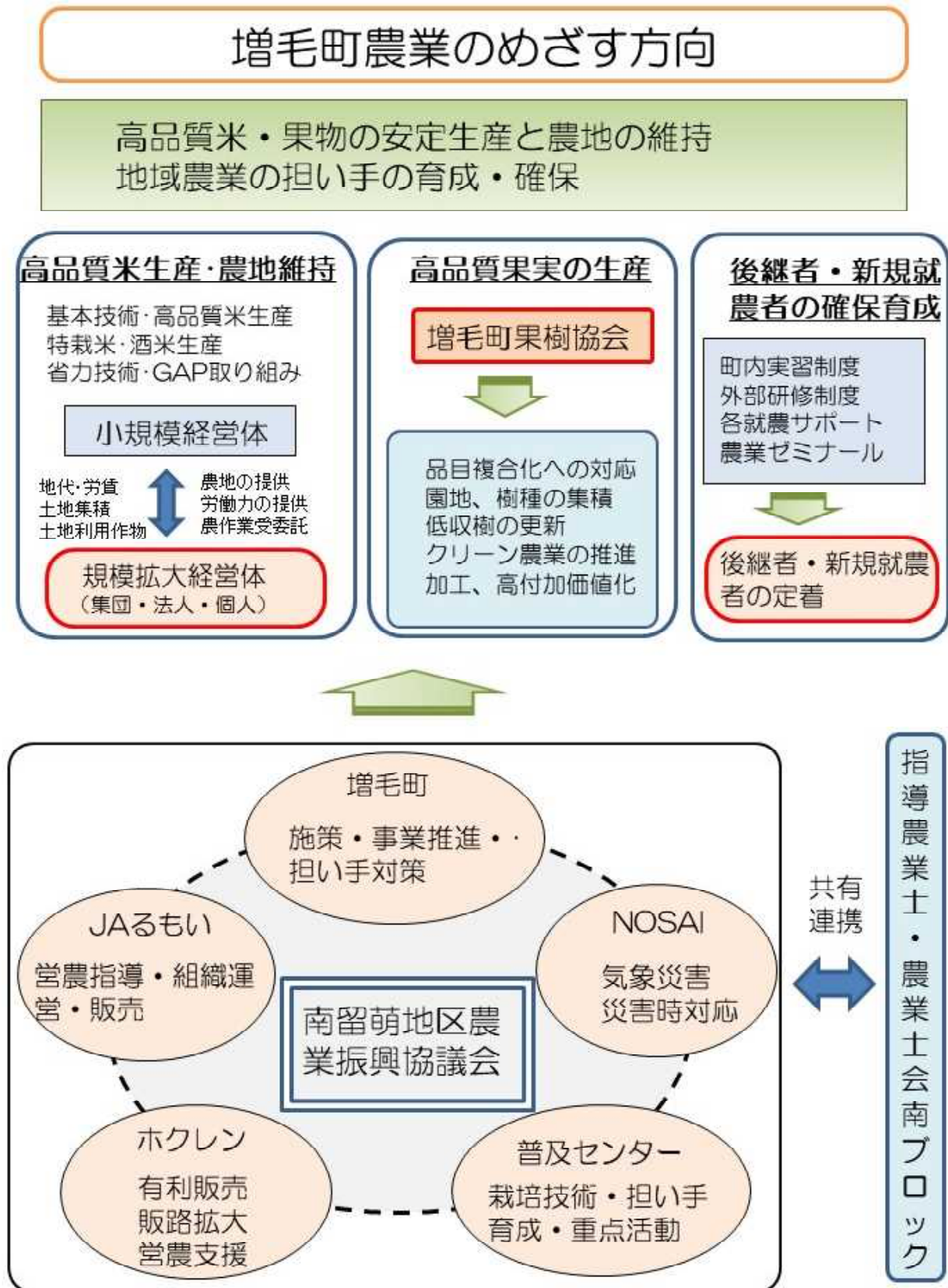
- ・果樹等の地域農産物を活用した消費者交流の活性化。



## (c) 具体的な改善対策（増毛町）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	農作業受託組織の効率的作業体系支援	活動支援	振興支援	組織運営支援	
	高品質米の安定生産と酒米の高品質生産	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	水稲直播栽培の安定生産	技術支援	振興支援	振興支援	
	YES!clean（果樹）・特別栽培農産物取り組み支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	果樹病虫害に対する防除対策支援	技術支援	振興支援	振興支援	
多様な農業人材が活躍する農村の確立	農業後継者、新規参入者、女性農業者の資質向上	活動支援 技術支援	研修支援	組織運営支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援と地域担い手育成推進	活動支援	活動支援	活動支援	
国内外の農業者・農村の連携・確立	農産物の高付加価値化に取り組むグループ活動支援	情報支援	活動支援	組織運営支援	
農道民の理解・支援の確立	地域農産物を活かした消費者交流の推進	活動支援	活動支援	販売活動支援	

(d) 振興構想図（増毛町）



## c 小平町

### (a) 農業・農村の現状（小平町）

#### ○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・規模拡大による労働力の競合を緩和するため、平成28年より水稲乾田直播栽培・水稲無代かき栽培の取り組みを開始した。しかし、水稲乾田直播栽培では収量・品質の年次変動が大きい。
- ・水稲は土壌診断結果に基づく適正な肥培管理の実施が少なく栽培技術に差がある。
- ・特別栽培米の取り組みにより減化学肥料・減化学合成農薬による米の生産が進んでいる。
- ・畑作物は主に転作畑で小麦、大豆が作付されているが、碎土性・透排水性が悪く生産性が低い。また、連作が続いている他、栽培技術に個人差がある。
- ・大豆・小麦は地区の作業組合や個人が母体となり、地域ごとの共同作業や作業受委託を実施している。
- ・地域主要野菜の作付面積は労力不足により減少傾向である。
- ・ミニトマトは苫前町の生産者とともにYES！clean認証を受けており、市場から高い評価を受けている。
- ・トルコギキョウは、市場から高い評価を得ている。しかし、多くの労力が必要なため、省力化や採花期分散を目的にハウス自動換気装置や温風暖房機が導入されている。
- ・肉用牛は、改良組合等を中心に優良血統の導入と牛群改良が進められており、令和4年度には、全国和牛能力共進会第7区(脂肪の質評価群)の北海道代表に選出された。販売頭数・発育成績は概ね安定しているが、全道的には相対的に低下しており、特に出荷体重の増加と飼養日数の短縮が求められる。また、牧草の多くが水田転作ほ場で生産されており、品質向上が課題となっている。

#### ○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・小平町4Hクラブは、研修会等による作物栽培技術の習得や地域行事への参加を中心に活動している。また、令和2年度より留萌管内4Hクラブ連絡協議会へ再加入し、地域外の青年農業者と交流が行われている。
- ・令和元年度より新規就農者、女性農業者等を含めた「学ぶ場」、「交流の場」とした農業基礎ゼミナールが普及センター主催で開催されている。
- ・「るもい指導農業士・農業士会南ブロック」では会員相互の情報交換が行われているが、指導農業士・農業士による地域の担い手育成活動の機会が少ない。

#### ○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・町内及び近隣で生産されている小麦粉「ルルロツソ（北海259号）」は、留萌管内の他、道内外の飲食店等にて生パスタやパン、ドーナツ等の原料として利用されている。

#### ○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・女性農業者グループは共同加工施設を活用して農産加工を行ってきたが、メンバーの固定化と高齢化により活動は停滞している。

## (b)改善方向（小平町）

### ○持続可能で生産性が高い農業・農村の確立

- ・ 水稻の基本技術の励行及び土壌診断結果に基づく施肥設計等の取組による低タンパク米生産率・高整粒米出荷率の向上及び酒米の高品質・安定生産。
- ・ 特別栽培米の取組に対する栽培技術の向上と販売状況等の情報共有。
- ・ 「南るもい輪作研究会」による水稻乾田直播栽培技術の研鑽及び安定生産。
- ・ 心土破碎、ほ場の均平化及び排水改善対策による粘質土壌の透水性改善対策を進め大豆間作小麦や田畑輪換による連作回避及びブロックローテーションを視野に入れた生産技術の推進。
- ・ 農作業の受委託組織（地域集団、小麦刈取乾燥調製受委託組合）の育成を進める。
- ・ 野菜・花き類におけるハウス自動換気装置及び機械化可能な品目の導入等による省力化。
- ・ YES! clean認証作物に対する安定生産の維持及び新規作付者増加の推進。
- ・ 肉牛は、地域の血統を活かしながら、小平町和牛改良組合や関係機関・団体と協力して、発育性の向上を図る。また、牧草栽培技術の向上を図るとともに、効率的な粗飼料生産体系を確立する。

### ○多様な人材が活躍する農業・農村の確立

- ・ 管内の他青年組織との積極的な交流による仲間づくりと活動の活性化。
- ・ 関係機関と連携した農業基礎ゼミナールによる新規就農者、女性農業者の育成。
- ・ 指導農業士・農業士を中心とした担い手育成体制の構築による担い手の育成。

### ○国内外の需要を取り込む農業・農村の確立

- ・ 地元産小麦のPR活動の推進。

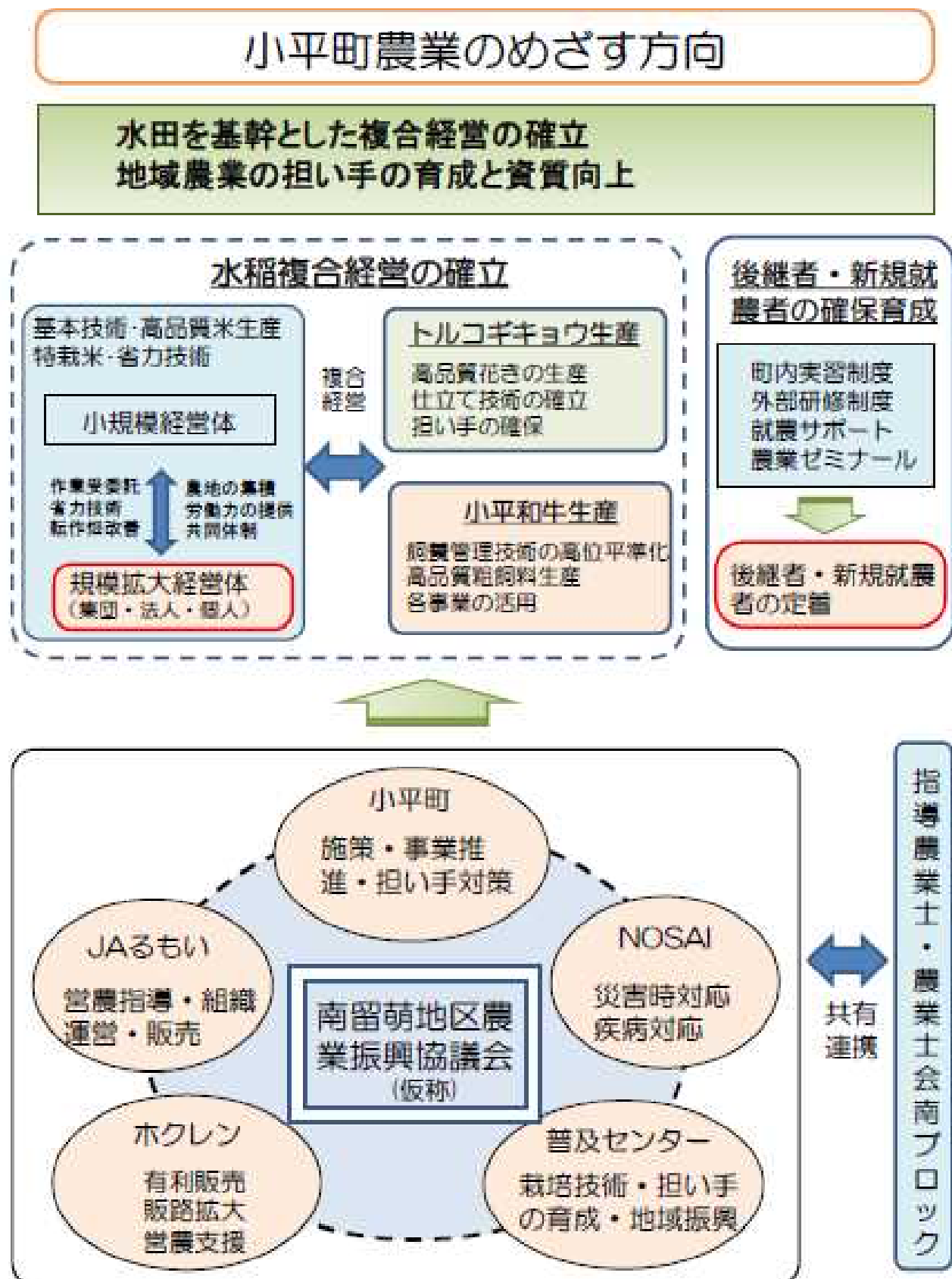
### ○道民の理解に支えられる農業・農村の確立

- ・ 地域農産物を生かした消費者交流。
- ・ 新規農産物栽培、加工品の開発による女性グループ活動の活性化及び積極的なPR。

## (c) 具体的な改善対策（小平町）

区 分	改善対策	連携・役割分担の内容			
		普及センター	市町村	農協	その他
持続可能で生産性が高い農業・農村の確立	高品質米の安定生産と省力化技術支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	特別栽培米の取組支援	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	水稲直播栽培の安定生産	技術支援	振興支援	振興支援	
	ほ場の排水改善及び畑作物生産技術の高位平準化	技術支援	振興支援	生産組織支援	
	農作業受託組織育成による効率的地域農業体制の支援	活動支援	振興支援	生産組織支援	
	野菜・花きの安定生産	技術支援	振興支援	生産計画・販売	
	YES! clean（ミニトマト）取り組み支援	活動支援	振興支援	生産計画・販売	
	和牛改良組合への飼養管理技術支援	技術支援	振興支援	生産組織支援	NOSAI
確立する多様な農業・農村の活躍	農業ゼミナールによる中堅農業後継者、新規参入者、女性農業者の資質向上	活動支援	研修支援	活動支援	
	指導農業士・農業士会の活動支援及び地域担い手育成推進	活動支援	活動支援	活動支援	
農村の確立	地元産小麦のPR活動支援	活動支援	振興支援	活動・販売支援	
の確立	農産物加工品のPR推進とグループ支援	活動支援	活動支援	組織支援	
	地域農産物を生かした消費者交流の推進	活動支援	活動支援	活動支援	

(d) 振興構想図（小平町）



## (イ) 普及活動の地域課題

## a 地域課題一覧（南留萌支所地域係）

課題番号	課題名 (関連事業)	具体的 推進事項	主たる 対象市町村	普及対象	担当者	活動期間
5	水稲直播栽培における技術向上支援	・基肥銘柄に合わせた適期追肥の実施（実施戸数 2戸→5戸）	小平町 増毛町	南るもい 輪作研究会水稲直播栽培者（8戸）	荒木普指 神野係長	R5
6	○次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立	水稲安定生産技術の確立 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施（実践戸数4戸→5戸→6戸）  地域農業を考える会（別荘クラブ）の活動支援 ・労働軽減対策の実践（実践戸数0戸→2戸→3戸）	増毛町	増毛町 別荘（10戸）	神野係長 小島専普 荒木普指 秋松主査 近藤主査 伊東支所長	R3～R7

b 重点的に取り組む地域課題（南留萌支所地域係）

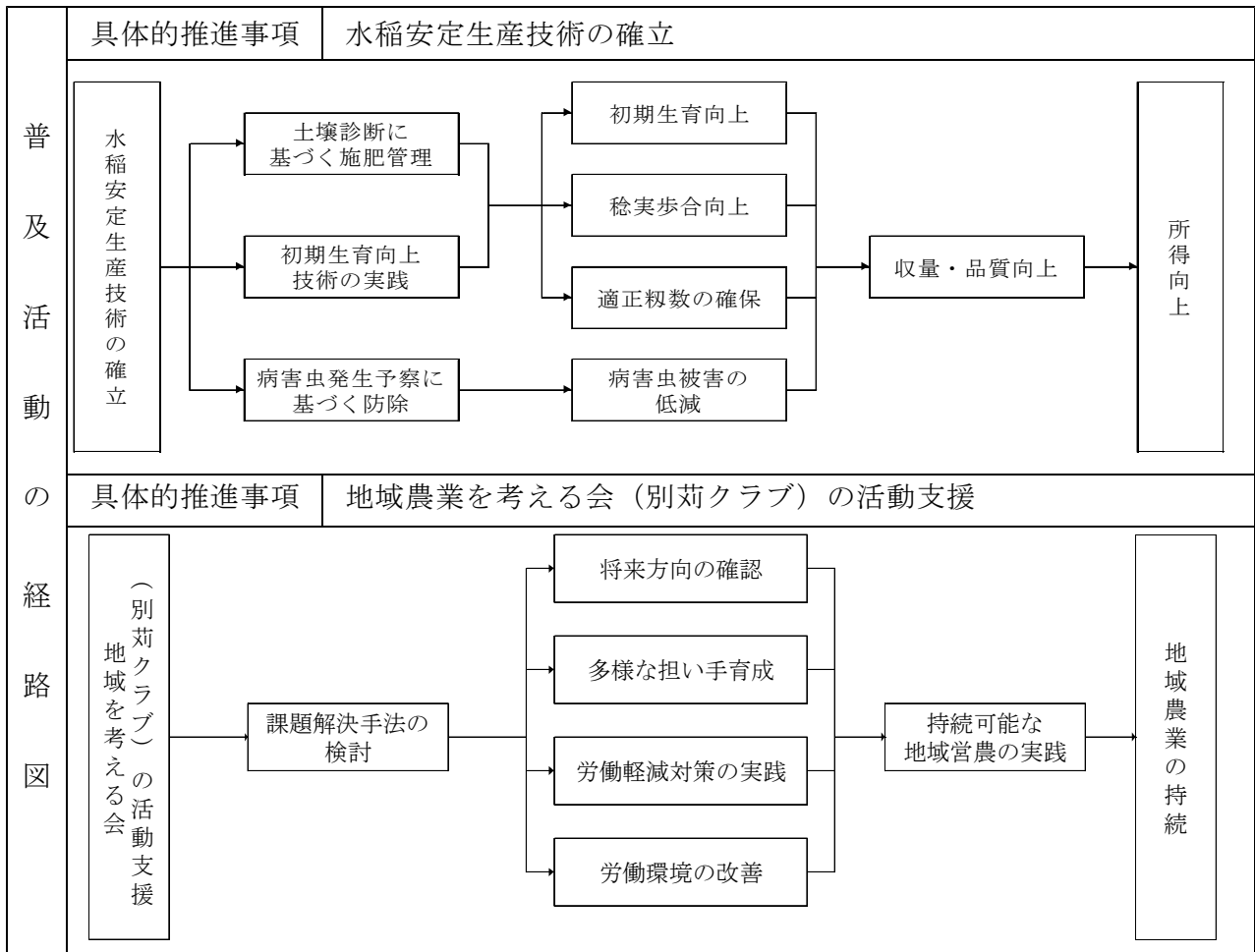
(a) 推進計画

課題名		次代を担う水稻を基幹とした地域農業の確立
対象地域		増毛町別苺地区（10戸）
主な活動目標		①水稻栽培技術の高位平準化による安定生産と売れる米づくり支援 ②労働環境整備による安全で効率的な農作業の実践支援 ③地域農業の持続をめざした地域営農の実践支援
活 動	R 3 (実績)	水稻安定生産技術の確立 (現況→目標→実績) ・初期生育向上技術の実践 (実践戸数 0戸→3戸→4戸) 効率的な労働環境の整備 ・GAP手法を活用した農場管理の改善点の整理と検討 (改善検討戸数 0戸→3戸→3戸) 地域農業を考える会（(仮)別苺クラブ）の設立 ・地域農業を考える会の設立 (考える会の設立 0→1→1)
	R 4 (実績)	水稻安定生産技術の確立 (現況→目標→実績) ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 (実践戸数 4戸→6戸→5戸) ・病虫害発生予察に基づく防除の実施 (実践戸数 0戸→4戸→4戸) 地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援 ・労働環境の改善 (改善数 0個→1個→1個) ・課題解決の実践 (取り組み数 0個→1個→1個)
年 次	R 5 (計画)	水稻安定生産技術の確立 (開始年→現況→本年度目標) ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 (実践戸数 4戸→5戸→6戸) 地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援 ・労働軽減対策の実践 (実践戸数 0戸→2戸→3戸)
	R 6 (計画)	水稻安定生産技術の確立 ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実践 地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援 ・労働軽減対策の実践
	R 7 (計画)	水稻安定生産技術の確立 ・水稻安定生産技術の定着 地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援 ・労働軽減対策の定着



## (b) 実践計画(増毛町)

課題番号	7	活動期間	令和3～7年度	担当係	南留萌支所地域係
課題名	次代を担う水稲を基幹とした地域農業の確立				
キャッチフレーズ	増毛町の特別なお米を苺り取り、将来にわたって皆様に届けます！				
対象地域	増毛町別苺地区（10戸）				
担当者	神野係長、小島専普、荒木普指 秋松主査、近藤主査、伊東支所長			連携 機 関	増毛町、JAるもい 上川農試
関連事業					
重点 対 象 の 状 況	<p>【別苺地域の現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総農地面積88.4ha（うち水田65.2ha、転作田7.2ha（全てそば）、果樹4.3ha）</li> <li>・水稲9戸 果樹5戸 野菜1戸</li> <li>・経営主平均年齢：62歳 （20代：1名 30代：2名 40代：1名 50代：1名 70代：2名 80代：3名）</li> </ul>				
	<p>(1) 対象地区の基幹品目は水稲であり、果樹の他に転作畑にはそばが作付されている。</p> <p>(2) 平成28年度より開始された基盤整備により、水田面積が大区画化され効率的な作業が可能となったが、一方で基盤整備により土質が変化したことから、土壌診断に基づく施肥管理や土づくりが必要である。</p> <p>(3) 水稲栽培では、令和2年より4戸の農業者が「ゆめぴりか」で特別栽培米の生産に取組み生産技術の向上が進んでいる。また、基盤整備の完了を機に一戸で労働軽減対策を目的に水稲直播に取り組んでいる。</p> <p>(4) 高齢化や労働力不足の現状から将来に向けて地域の課題解決とスマート農業等を活用した持続可能な地域農業の実践が必要とされる。また、対象の農業者は当該地域に居住しておらず、地域農事組合がない中、令和3年度に地域を考える会「別苺クラブ」の設立に至り、話し合いの中から水稲栽培技術対策と労働軽減対策を地域課題として取り組む。</p>				
最終年度 到達目標	<p>地域農業粗生産額の維持（H27を100とした指数で100以上）</p> <p>※H27と対比する理由：基盤整備の実施に伴う未作付年があるため</p>				
<u>具体的推進事項</u>		普及対象	担当者	連携機関	
・目標事項（開始年→現況→本年度目標）					
<u>水稲安定生産技術の確立</u> ・土壌診断結果に基づいた施肥管理の実施 （実践戸数 4戸→5戸→6戸）		水稲栽培農家 （9戸）	神野係長 小島専普 荒木普指 秋松主査 近藤主査	増毛町 JAるもい 上川農試	
<u>地域農業を考える会（別苺クラブ）の活動支援</u> ・労働軽減対策の実践 （実践戸数 0戸→2戸→3戸）		全戸 （10戸）	伊東支所長		



活動内容・方法

